

愛知県立時習館高等学校

日英独高校生の国際シンポジウム等による グローバル・リーダーの育成

【構想の概要】

本校の「自ら考え自ら成す」の精神を実践し、「問題（課題）発見・解決力」「論理的思考力・批判的思考力」「英語によるプレゼンテーション能力」「異文化理解力」等の国際的素養を身に付けた、日本の未来を創造的に描くことのできるグローバル・リーダーの育成を、以下の4つのカテゴリーに分類して行う。

- ① カリキュラム開発
- ② 国内の大学や企業等と連携した「SGH発展学習」
- ③ 日本及び日本を取り巻くアジアについての探究活動
- ④ 英国、ドイツ、マレーシアの姉妹校や海外の大学、国際関連機関、企業と連携した「SGH海外学習」



□教育課程表

※○内の数字は1週間あたりの時間数 ★SS&SG ESP…SS&SG English for Social Purposes ◆SS総合理科AもしくはSS総合理科B

学年	SG日本文化探究 I	SGアジア探究	数学 I	数学 A	数学 II	数学 B	SS総合理科A	SS総合理科B	体育	SS健康科学	音楽 I	美術 I	書道 I	コミュニケーション英語 I	★SS&SG ESP I	家庭基礎	探究基礎	LT	
1年	⑤	②	②	②	①	①	②	②	②	①	②	②	②	④	②	②	③	①	
2年 グローバルコース	⑥		世界史B	日本史B 地理B	数学 II	数学 B		◆SS総合理科C	①	②	②	①	②	①	②	④	②	①	①
3年 グローバルコース	②	②	②	世界史B 日本史B 地理B	人類の思想	発展数学	数学演習	SS総合理科A SS総合理科B	②	②	②	②	②	③	⑤	②	②	①	①

1学年 320名で、第1学年は全員がSGHの対象である。第2・3学年は「サイエンスコース（理系）」と「グローバルコース（文系）」に分かれる。そのうち後者がSGHの対象で、各学年約120名が該当する。

カリキュラム開発

(1) 課題研究を実施する科目

本校では、学年進行で「アジアの中の日本を知る」(第1学年)、「世界の中の日本を知る」(第2学年)、「日本の未来を描く」(第3学年)の各目標に沿った課題研究を段階的に展開し、以下の①～③の学校設定科目を設けている。そのいずれにおいても、連携大学である愛知大学より招聘した教員及び留学生が研究指導にあたるほか、生徒は研究にあたり、同大学の図書館で論文検索を行うことができる。

① SGアジア探究 (第1学年)

公民科、2単位

10月中旬以降に集中して、教員が設定した5つのカテゴリについて、グループ研究を実施する。

② SG国際探究 (第2学年)

学校設定教科「SS&SG」、1単位

年間を通して、SDGsに基づいて生徒が設定したカテゴリについて、グループ研究を実施する。

③ SGグローバル社会探究 (第3学年)

学校設定教科「SS&SG」、1単位

年間を通して、各自で進路目標に関連したテーマを設定して個人研究を行い、行動計画を発表する。

(2) 課題研究に関連する科目

① 探究基礎 (第1学年)

学校設定教科「SS&SG」、3単位

課題研究を行うにあたって必要となる能力(情報活用能力、数的処理能力、論理的思考力等)を身につけることを目的に、3つの分野から展開する。

② SS&SG ESPI・II (第1～3学年)

英語科、各学年2単位

課題研究やその発表に必要な能力や態度を、表現活動を通して育成する。2年次に行う事業では、豊橋技術科学大学の留学生が講師として参加する。

(3) 課題研究以外の科目

SG日本文化探究I・II (第1・2学年)

国語科、第1学年：5単位、第2学年：6単位

日本の文化や伝統を深く知り、それを伝えることに重きを置く。文化の発信については、3ヶ国の姉妹校生徒が来校する機会に発表会を設けている。

課題研究成果の校内での共有

「SGアジア探究」と「SG国際探究」については合同で成果発表会を設け、学年を超えた研究成果を互いに共有している。また、次年度初頭にはSSHと合同で、事業全体の成果発表会を行っている。

教員は担当分掌「SG部」を中心に、下図に示すような体制をとり、情報共有の体制を整えている。



成果に関するエビデンスとそこからみえる課題

事業の成果は、生徒及び教員の自己評価に基づいて実施する「SG意識調査」で検証している。同調査は、研究構想にある「グローバル・リーダー」に必要なと考えられる8つの要素について問うている。

本校生徒はこの調査に限らず、各種調査においてハードルを高めに設定する傾向がみられる。平成30年度に実施した「SG意識調査」でも、異文化理解力についてその傾向が示された。課題研究にかかる指導の中で生徒の自己肯定感を高め、発展的な取組に挑戦する機運を高めることが課題である。

同年度の教員向け調査では、生徒の能力等が「大変増した」もしくは「増した」と回答する割合が高かった。一方で、年間事業計画の立案に遅れをとった事業に関する項目では数値がやや低くなっており、早期の計画及び立案の重要性が課題といえる。

他校への成果の普及と今後の展望

本校の研究開発による成果は、成果発表会で共有を図るほか、別途「情報交換会」として質疑応答や研究協議の場を設け、他校への普及を図っている。「総合的な探究の時間」の開始を控え、本校の取組を参考に探究型授業の計画に着手した学校もあると聞く。今後は、本校で課題研究指導に携わった教員が、その経験を他校で生かすことが期待される。

指定終了後は県の事業において、持続可能な形で課題研究への取組等の事業を継続させ、「グローバル・リーダー」を地域、並びに世界へ輩出したい。